

雨に映える 花のまち

6月うつろいし季節、雨の季節のドライブは心がいっぱい花を眺めながら景色を探しに由かたの雨に酔って、その雨音を聞きながら花を眺めよう。



西日本随一の 花菖蒲園へ

6月は雨の季節。雨が似合う花はそう多くないが、中でも代表的なアジサイは色数も種類も多い花。しかし、花菖蒲も負けてはいない。庭先の植込みなどで見かけることが多いアジサイに比べて、花菖蒲は数千㎡という広い敷地を埋めつくしていることも珍しくないから、種類の多さやとりとてきた風情もさながら、一面に広がる景観が見とれてしまう。

花のまちとして知られる長崎県大村市。歴代大村藩主の居城だった玖島城跡を中心に広がる大村公園は、国指定天然記念物のオオムラサキを初め、年中花が楽しめることがな。その一角の、城址を囲む広場・角堀南堀跡でも花壇を迎えているのが花菖蒲だ。総面積9500㎡。昭和36年の開園当初は、80種ほどだった種類も、現在は170余種類と2倍以上、10万株、30万本の色とりどりの花菖蒲が西日本随一のスケールで、県内外から訪れる人を楽しませている。

板敷櫓や 石垣をバックに 色とりどりの花菖蒲

花菖蒲は、江戸系一（肥後系二）伊勢系の3つの系統に分かれていて、それぞれに特徴がある。「一室に咲いたみんなどじに見えませう、系系と種類の違いをわかって観ると、いっそう楽しめる」と教えてくれたのは、大村市総合組合員の藤原和博さんだ。

富永さんによると、江戸系はキリッとした、江戸っ子の粋で、植えたが目に覚えがある。肥後系は、つづみの花が大きくてゴージャス。肥後（熊本）の敷様が結ばれて、雄雉なという見方を楽しんだという。伊勢系は、外向きに垂れ下がる感じの花で、可憐さのある上品な姿。



「種類によって早咲き～遅咲きまであるので、コンパウンドで長く楽しめます」と藤原さん



上／伊勢系。品種は豊富だが、400種類以上もあるといわれる園では最も多く、大村市では最も美しい花を咲かせるために花や草の管理が欠かせない。中／江戸系。朝露がついている早咲き～6時頃の花はみずみずしく一層きれい。下／色とりどりの大きな葉を埋め込んだ壁が今もきれいな形で残っている。大村市「玖島城跡」を背景に咲き誇る花菖蒲。大村市が誇る絶景のロケーションにも人気。

Key West Press キーウエストプレス

情報誌「Key West Press」のテーマは、クルマの「キー」と西九州トヨタの「ウエスト」を組み合わせた。さらに北アフリカ最南端のリゾート「Key West」の自由で楽しい雰囲気を込めた。大小さまざまな400もの車やからなる「The Keys」の一冊の「Key West」は、マイアミから車で5時間ほどの人気の美しいリゾート地。そして、カサブランカで続くルート1の出发点でもあり、クルマや旅や自然を楽しむ、クルマのある暮らしを楽しむ人たちに、新鮮で魅力的な情報をお届けする「Key West Press」を、これからもどうぞよろしくお読みいただきます。

見えていた花が、確かに違っていた。見るからに美しいものだ。

咲いた翌日から
花摘みで来年の準備

咲いた花は翌日はしむと、いう花菖蒲。3歳、4歳花まで、こので1株で平均1日間つづみの、番上の1番花が咲いて、翌日ばむい花をみずみずしくお客さんにいもきれいな花を、観てもらつたため、来春の開花に向けての準備だ。株分けは

3年に1度。毎年元気がよい花が咲くように必ず、半分は1株で替えるので、それが1年経たずから1年後のことを考えて株分けを始める。まず、育ちさへお客さんに見せるために「面」の状態にするのが、一番苦しいことだといふ。

きれいな花心を洗った後、は公園近くにある武家屋敷の散策に出かける。大村市、城下の雰囲気がある。色もよく残つた一本の木の小川には、そこにに重なる石垣が、現代の

華らしさを思わせるマツチ、情緒を添えている。また、大村地方独特の五色櫓が、地元のこの辺り、海まで運んできたもの、石を積み重ねた土塀が、当時の花菖蒲の、美しい花の節の趣下町を、築きた旅を、つづける。

■ 大村市花菖蒲園
大村市花菖蒲園は、大村市花菖蒲園の中心地。大村市花菖蒲園は、大村市花菖蒲園の中心地。大村市花菖蒲園は、大村市花菖蒲園の中心地。